

この頃思うこと

こやまのりこ
小山範子

冒頭に暗い話なのですが、最近叔母が亡くなりました。母の妹に当たります。叔母はカトリック信者で、横浜の戸塚教会で葬儀ミサがありました。戸塚教会は築20年余りになるようで、とても立派な大きな教会でした。信徒の方々の協力により肅々とミサが進められ、家族葬にも関わらず、聖歌隊もついてくださり、素晴らしいミサでした。

夕方、叔母さんを偲んで食事が催されました。親戚一同、叔母さんの昔話に花が咲きました。その話の中で、今はもうすでに亡くなった叔父さんが、戦後すぐカトリックの洗礼を受けたことがわかりました。そして叔母さんが洗礼を受け、私の母が洗礼を受けたのが真実のようでした。何だか自分のルーツがわかったように思いました。

叔父さんがカトリックに改宗すると宣言したとき、祖父と祖母は猛烈に反対したそうです。それはそれは大変で、大ゲンカだったそうです。祖父も祖母も真言宗の熱心な信徒でしたから。親戚一同が仏教の中、カトリックを貫くことは大変なことだったと思います。実際、このことを話してくれた一番下の叔父さんもあまりいい口調ではありませんでした。わたしたちがいるから抑えて話しているという感じでした。「ミサの中で何をやっているのかな？」とか「教皇さんはほんとうに来るの？」などの質問も飛び出します。それに丁寧に一つひとつ答えなくてはならないという圧力を感じました。

私はキリスト教の中で同じ価値観の中で育てられました。これも母のおかげだと感謝しています。久しぶりに親戚に会って懐かしさを感じましたが、周りがキリスト教でない人々の中で過ごしてみて、福音宣教の難しさを感じました。特にお葬式は自分の宗教を明らかにします。自分がキリスト教の信徒であると認めてもらうことは、少しの圧力をはねのけて、自信をもってキリスト教であると宣言できるようにしなくてはならないと感じました。

私は学校はずっと公立でした。しかも田舎の学校です。いつも教室にカトリック信者は私一人しかいませんでした。小学校のころは、わたしがキリスト教であると知られると、珍しがられるという圧力にいつも耐えなくてはなりません。そのことを考えると、カトリック信者に最初になった叔父さんは、福音宣教にしっかりと成功したと言えます。そして、叔母さんは自分の夫と二人の息子をカトリックに、私の母は4人の子どもをカトリックにしました。私も自分の周りにいる人々とか、親戚に自信をもってカトリックを宣言できるようになりたい。そのためには聖書をもっと知ることが大切だと感じました。(最後は何だか小学生の宣言文のようになってしまいました…)ひととの関わりを大切にして、改めて細かく永く関わっていきたくて思いました。